

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 中学校道徳科における学びがつながることを目指した問いの工夫と振り返りの工夫を通して —

指導主事 梶原 圭一
安武 史子

研究協力員 南小国町立南小国中学校 教諭 野中 詩音

1 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

中学校の道徳科において育むべき『見方・考え方』は、「様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること」と示された。また、この『見方・考え方』は、道徳科における「深い学び」の鍵となるものであり、今回の改訂で道徳科の目標の中にも示されている。このことから、道徳科で育むべき『見方・考え方』の深まりを目指すという視点をもって、道徳科の授業づくりに努めるとともに、道徳的な問題や諸価値に関わる多面的・多角的な思考の進展を生み出す学習活動をデザインしていく必要がある。

さらに、道徳教育の質的転換に向けて、各学校においては、道徳科を学校教育全体で行う道徳教育の真の「要」となるようにカリキュラム・マネジメントを確立することが求められている。そのためには、各学校の教育目標に基づいて育むべき資質・能力と関連する道徳的諸価値との関係性を明確にした学習計画を組み立てる必要もある。このように教科等横断的に道徳学習を計画することで、生徒の意識の連続性を考えた教育活動が展開できると考えた。

生徒の道徳的価値に対する意識を連続させ、さらに多面的・多角的な思考を促す鍵は、「問い」である。道徳科における問いは、「自分はどうか」、「どう生きるか」という実践的な問いにつながっていくことが重要である。そして、自分が導き出した考えが、これからの生活や生き方に何らかの影響を与えることが求められる。

そこで、道徳科の学習を中核に、多様な意見に触れながら自分の考え方や感じ方をより深めることができるよう、関係する学習活動や体験、日常生活などを結び付けた問い（学習テーマ）を設定した。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

中学校学習指導要領には、生徒が主体的に道徳性を育むための指導として、「生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること」と示されている。この実現に向けては、生徒自身が自分のよさや目標を見出せるように、自己評価する力を高めていく必要がある。見通しを持って学び、学びを振り返る学習活動を意図的・計画的に道徳科の学習のみならず、関連する教育活動内に位置付けることにより、生徒自らが成長を振り返り、新たな課題や目標を見出すといったより主体的な学習へと転換を図ることも可能となる。

「自ら道徳性を養う」といった生徒の思考過程は見えないものである。その見えない思考プロセスを可視化する工夫を行うことで、生徒自身が「何を学んだのか」を感じ取ることができ、生徒一人一人にとっての豊かな学びへとつながると考えた。

2 研究の実際

検証	中学校第3学年
主題名	日々の充実 A（中4）希望と勇気、克己と強い意志
教材名	「百年の生涯」
出典	道徳教育用郷土資料「熊本の心」（中学校）

(1) 本時の授業設計

① 生徒に身に付けたい資質・能力

南小国町立南小国中学校の教育目標は、「基本的人権を尊重し、ふるさと南小国を愛し、夢に向かって『挑戦』する南中生を育てる」と定められている。この教育目標の達成に向けて、目指す生徒像も職員間で共通理解し、日々の教育活動が進められている。

目指す生徒像に求められる資質・能力について、校内で洗い出された結果、図1のような資質・能力を「身に付けたい力」としてまとめられた。

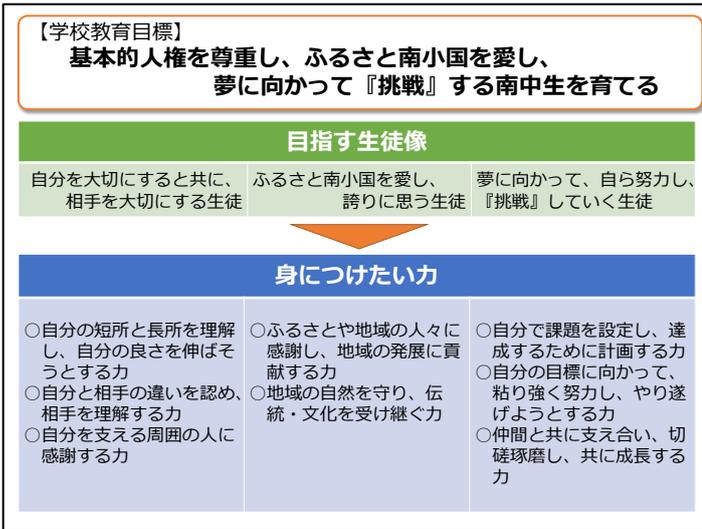


図1 生徒に身に付けたい資質・能力

検証授業対象の3年生は、卒業後の進路選択を迫られる時期に差し掛かる。このような時期に、生徒一人一人が自分の夢を持ち、自分の目標に向かって、粘り強く努力し、やり遂げようとする力を身に付けて欲しいと考え、今回の実践を計画した。

② ねらいとする内容項目について

人間としてよりよく生きるには、目標や希望を持つことが大切である。自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにする。しかし、自己の内面による気まぐれや無計画、怠け心などの弱さから、困難や失敗に直面し、挫折することは少なくない。自分自身の弱さに打ち勝ち、困難や失敗を乗り越え、目標を達成しようとする強い意志を養うことは、生きることへの希望を育むことにもつながる。

中学生の段階では、自分の好むことや価値を認められたものに対しては意欲的に取り組む態度が育ってくる。しかし、入学して間もない時期には、将来に向けて大きな目標を立てるものの、理想通りにいかない現実に悩み苦しむ生徒も少なくない。また、進路選択を前に、将来の夢が定まらず、自分のしたいことややりたい姿を思い描けない生徒もいる。そこで、目標を持つことの大切さや、目標達成に向けて困難や失敗を乗り越え、努力や挑戦し続けるよさを考えたり感じたりすることは意義深いことである。

③ 生徒の実態から

生徒の実態としては、自分で目標を設定して計画的に実行する力が十分身に付いておらず、今さえよければいいという安易な考えを持つ傾向が見られた。

全員が目標を設定することは大切だと考えているものの、目標を設定することができていない生徒が2割いる。目標の内容は、テストや成績、進路に関するものが一番多く、次に仕事や自分の夢に関することが多い。半数以上の生徒が目標に向かって取り組んでいると感じているのに対し、自信を持って取り組んでいると答えられない生徒も4割程度いる。

自分の目標に向かって努力や挑戦を続けることで人は満足感や達成感を得ることができ、その積み重ねがよりよい人生につながることに気付かせ、日々を充実させるために、目標に向かって努力しようとする心情を高めたいと考えた。

④ 教科等横断的な道徳学習の計画

本研究では、生徒の意識の連続性を考え、道徳科が教育活動の真の要としての役割を果たすことを目指し、道徳科の学習を中心に、関連する教育活動や日常生活等と密接に関連させた教科等横断的な道徳学習の計画を立てることで、生徒自らが道徳性を育むプロセスに視点を当てた実践を行うことにする。

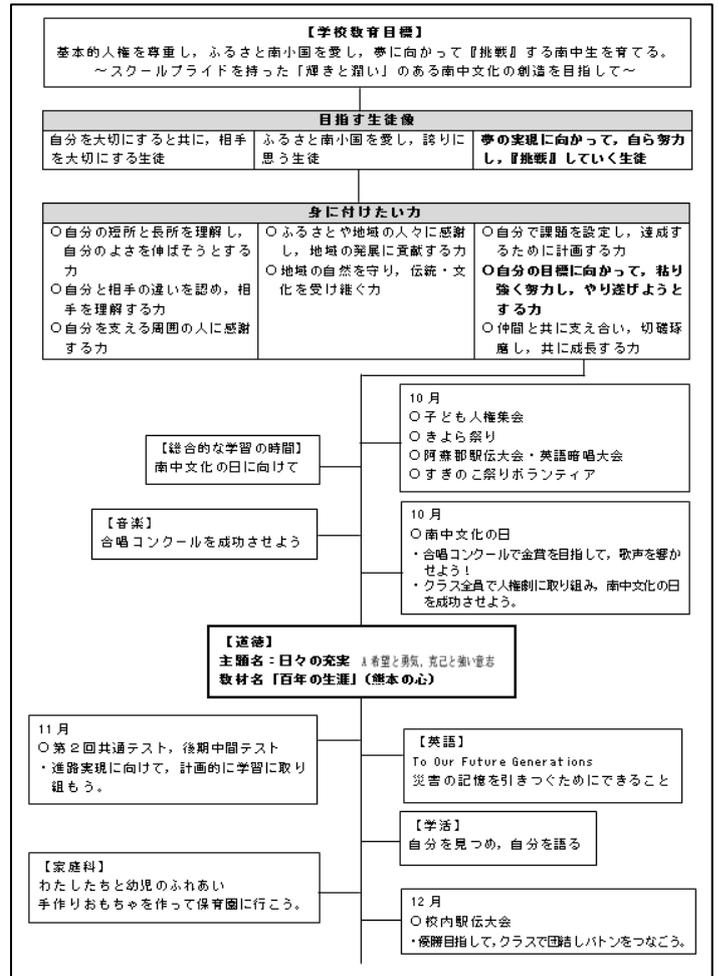


図2 教科等横断的な道徳学習の流れ

⑤ 教材について

本教材「百年の生涯」は、福田産婦人科を創立した福田令寿の生き方を描いたものである。病気にかかっているのに貧しくてお金が払えず、十分な治療を受けることができない人たちのために、「無料診療所」を開設することが目標だった福田令寿は、医者となり、福田産婦人科と無料診療所の両方を開設した。無料診療所には、たくさんの人が訪れ、福田令寿は寝る間も惜しんで患者さんの治療に携わった。寄付金は思うように集まらず、診療所の経営は難しかったが、それでも診療は30余年にわたって続けられ、たくさんの人を命を救ってきた。

福田令寿にとって充実した生活をおくるために大切なことは何かを考えさせることで、目標を持つことの大切さや達成しようとする強い意志の大切さを感じ取り、困難や失敗を乗り越えて目標をやり遂げようとする心情を養うことができる教材である。

(2) 研究の視点

① 研究の視点 1

① 教科等横断的に道徳学習を進めるに当たり、それぞれの学習活動の中で同じ問いを生徒に投げかけることにより、日々の学習や生活とねらいとする内容項目とを関連付けながら振り返ることができるようにする。

② 研究の視点 2

② 自分の考えを多面的・多角的な視点から振り返り、互いの考えの異同を整理して、自分の考えになかったものを受け入れて生かすために、「思考ツール」を活用する。
 ③ 教科等横断的な道徳学習の中で自らが考えた思いや願いについて1枚ポートフォリオに整理し、自らの道徳性に係る成長の様子を自己評価できるようにする。

(3) 本時の実際

過程	学習活動及び指導上の留意点
導入	1 自分を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">充実した日々をおくることができていますか。</div> ○充実度について書きためてきたポートフォリオカードを見ながら、これまでの自分を振り返る。 【研究の視点2】 ③ 教科等横断的な道徳学習の中で自らが考えた思いや願いについてまとめた1枚ポートフォリオを確認し、本時の学習に対する課題を持つ。
	2 教材「百年の生涯」を視聴し、福田令寿の生き方について考える。 ○寝る時間もないほど忙しい中で、「それでも、楽しい毎日を送ることができた」と言えた令寿の気持ちを考える。 ※個人で考えた後、意見交流する。

展開	3 価値についての理解を深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">充実した日々をおくるために大切なことは何だろう。</div> 【研究の視点1】 ① 教科等横断的な道徳学習のテーマである「充実した日々」に関連付けた中心発問を設定し、自らの具体的な生活場面を振り返って意見を考えられるようにする。 ○互いの考えを交流する。 【研究の視点2】 ② 自分の考えを付箋に記入し、生徒同士で話し合うことで互いの考えを出し合いながら異同を整理したり、意見の根拠を交流し合うことで自分の考えになかった視点を受け止め、自らの価値観を見直させる。
	4 先輩や地域の人、校長先生にインタビューしたビデオレターから、自分自身を見つめ直し、これからの自身の課題や目標等について、ワークシートにまとめ、交流する。

(3) 検証結果と考察

① 「豊かな学び」について

表1は、「豊かな学び」に関する変容について「学習活動の充実」と「成長の実感」の2つの観点で調査した質問紙調査の結果である。

表1 学び全体の変容 (n=30) 4件法

有意確率**<0.01 *<0.05

	質問	事前	事後	有意確率
学習活動の充実	道徳の時間に、今まであったことを思い出して、その時の自分と比べながら考えている。	3.00	3.28	0.001**
	話合いで、友だちの考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほど思ったりするところがある。	3.03	3.31	0.009**
	グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある。	3.21	3.48	0.001**
成長の実感	道徳の時間に、自分にとって大切なことがわかる。	2.97	3.52	0.001**
	道徳の時間に、これからの自分はこうしていきたいと考えている。	3.14	3.45	0.008**
	「毎日を充実させる」ために、何をすればよいか考えながら生活している。 目標に向かって、ねばり強く努力し、やり遂げようとしている。	2.72 2.90	3.21 3.28	0.000** 0.001**

以下、本実践の検証結果との関連について研究の視点を踏まえて考察を述べる。

「学習活動の充実」並びに「成長の実感」の全ての項目において、有意な向上が見られた。

「学習活動の充実」においては、研究の視点1により生徒と教師が思考すべき価値が共有化され、本時の学習と生活場面とのつながりが明確になったことが成果につながったものと考えられる。また、研究の視点2の思考ツールを活用したグループ学習については、生徒の有用感が高く、様々な価値観を持つ他者の意見に触れながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考えるよさを体感できたと推察する。

「成長の実感」については、研究の視点2の1枚ポートフォリオの実践により、ねらいとする価値に関わる学習テーマに照らしてそれぞれの生活場面における気持ちの変化や行動等を総合的に可視化できるようにしたことで、自らの成長を自己評価し、新たな目標を見付けることにつながったと考える。

図3は、生徒が作成した1枚ポートフォリオである。この中で見られた生徒の記述を以下に示す。

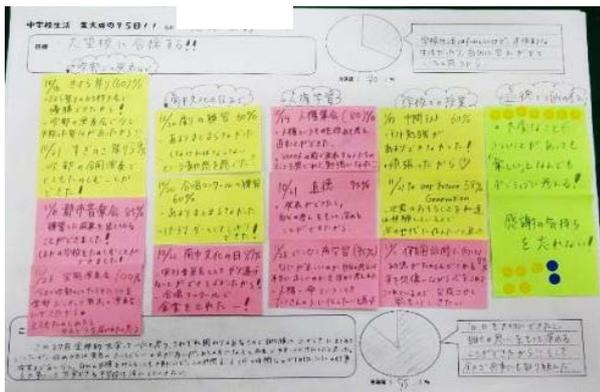


図3 1枚ポートフォリオの実際

- ・ 友達の意見を聞いて、自分の考えを深めることができました。自分の中になかった視点からの意見もあって、おもしろいなと思いました。
- ・ 今の自分を振り返ることができてよかったです。これからの自分につなげていこうと思います。
- ・ 班の人や他の人と自分の考えを深め合うことができてよかったです。

② 「未来の創り手」について

表2は、「未来の創り手」について見取る質問紙調査の結果の一部である。

表2 「未来の創り手」に関する変容 (n=30) 4件法
有意確率**<0.01 *<0.05

質問	事前	事後	有意確率
自分は学校生活や学習を通して学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う。	3.00	3.07	0.345
自分は、周りの人が学校生活や学習を通して学んだことをもとに、主体的になったと思う。	3.07	3.11	0.416

「未来の創り手」の調査項目では、若干変容は見られたものの、本研究の取組との関係性まではつかむことができなかった。

今回の教科等横断的な道徳学習は、2ヶ月ほどの短い期間での実践であったが、「生徒に身に付けたい力」に沿って、生徒の発達段階や実態を的確に捉え、年間を通じてより計画的に取り組む必要がある。その定期的な見取りの中で、「未来の創り手」の具体的な姿について明らかにしていく必要があると考える。

3 研究のまとめ

今回、中学校道徳科では、研究の視点によって「豊かな学び」につながったかを検証した。

(1) 成果

道徳科を要としながら、他教科と関連を図った教科等横断的な道徳学習を計画し、生徒の実態から生徒と教師が共に考えた道徳的価値に関わる問い(学習テーマ)を設定した。この問いが道徳科と他教科等を有機的に結び付け、自己を見つめたり、物事を広い視野から多面的・多角的に考えたりするうえで、効果的な役割を果たした。また、思考ツールを活用し、互いの意見を交流し合う活動を学習に位置付けたことで、個々の学習シートの記述から、自分と他者の意見を対比しながら道徳的価値の理解を深め、人間としての生き方について考えることにつながったと推察できた。特に、道徳性に係る成長の様子を評価するに当たり、生徒が自ら作成した1枚ポートフォリオは、思考過程の可視化という点で極めて効果的であった。

(2) 課題

各学校で身に付けることを目指す資質・能力については、職員間の共通理解と教科横断的な計画づくり、そして指導の系統性が重要となってくる。学校総体で取り組む道徳科を中核としたカリキュラム・マネジメントの在り方についても研究を進めることで、「豊かな学び」と「未来の創り手」につながる「豊かな学び」の在り方について探っていきたい。

《引用・参考文献》

- ・ 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- ・ 中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』
- ・ 「考え、議論する道徳」を実現する会(2017)『考え、議論する道徳を実現する』(図書文化社)